

特集展示

やまきた じろうた
山喜多 二郎太

ちゅうごく ちょうせん
中国 / 朝鮮にて

山喜多二郎太（1897-1965）は、福岡県の出身で、東京美術学校西洋画科藤島武二教室で洋画を学ぶ一方、日本画家・寺崎広業に師事して日本画を学び、大正15年（1926）、画壇仲間が皆パリへ遊学する中を独り中国へ渡った異色の画家です。

春から秋にかけての中国の旅では、残されたスケッチや当時の地図によると、江南地方から長江（揚子江）を遡上し、杭州、蘇州、南京、三峡を経て四川へ至ったようです。江南地方ののどかな暮らし、それとは対照的な、三峡の激流に抗する曳船・帆船といった中国での見聞は、南画スタイルの洋画と称される独自の画風や、晩年多く描いた水墨画の作風に大きな影響を与えました。

作品名	制作年	技法・材質
ちょうせん 朝鮮にて	昭和12年（1937）頃	油彩・画布
しせんしやう はる 四川省の春		墨彩・紙
なんし しよけん 南支所見（1）		墨彩・紙
こうなん まち 江南の町にて		墨彩・紙
こうしゅう 杭州にて		墨彩・紙
こうしゅう まち 杭州の町		墨彩・紙
こうしゅう 杭州のクリークにて		墨彩・紙
そしゅう ふね 蘇州の舟（2）		墨彩・紙